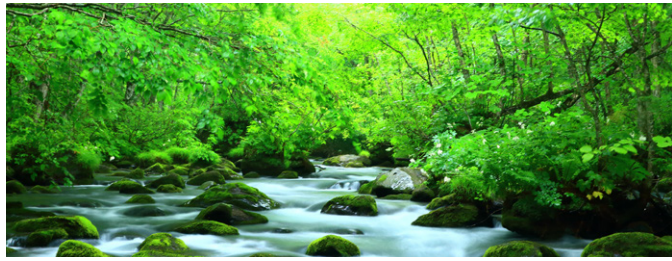
E S G 持続可能な地球環境への貢献



気候変動へのアクション
-脱炭素に向けた取り組みの推進

博報堂DYグループでは「気候変動をはじめとする環境への対応」として、2050年にカーボンニュートラルを目指し取り組みをサプライチェーン全体で進めています。

環境方針

博報堂DYグループは事業活動において、環境に関する法律・条例および業界基準などを遵守し、環境負荷低減に自主的に努めていくとともに、社員一人ひとりが持つクリエイティビティや行動力・実現力を活かし、取引先とのビジネスなどを通じ、持続可能な社会の実現と発展を目指していきます。

2026年に環境方針を改定しました。

環境方針

博報堂DYグループは、グローバルパーパス「生活者、企業、社会。それぞれの内なる想いを解き放ち、時代をひらく力にする。Aspirations Unleashed」を掲げています。
私たちはこのグローバルパーパスのもと、お取引先や社会の課題解決を通じて、生活者の想いがあふれ、いきいきと活躍できる社会の実現を目指しています。そのためには、すべての活動の前提となる地球環境が、健全で持続可能であることが欠かせないものであると認識しています。
生活者一人ひとりの想いや暮らしを起点に考える「生活者発想」と、「パートナー主義」を大切な考え方と掲げる私たちは、環境に関連する法令・条例および業界基準等の順守を徹底したビジネスを推進します。
さらに、当社グループが持つクリエイティビティによって、生活者・企業・社会が共創し、環境に対する行動変容を生み出すことで、環境負荷の低減と持続可能な社会の発展に貢献します。
本方針の実行およびサステナビリティの推進は、博報堂DYグループサステナビリティ委員会にて、経営レベルでの進捗管理や見直しを図ります。

1. 環境法規制・順守義務
2. 気候変動対策の推進
3. 事業における環境汚染の防止、循環経済の推進、生物多様性への配慮
4. 事業を通じた環境価値の創出
5. コミュニケーション・環境情報開示
6. 環境マネジメント
7. 従業員への教育と意識向上

詳細 ▶ WEB 環境方針全文

推進体制

年に2回開催されるグループサステナビリティ委員会において、経営レベルでの監督および、気候変動リスクおよび機会に関する進捗管理や見直しを行っています。また、重要な事項については取締役会への報告・審議・決議を経て意思決定するとともに、必要に応じてグループコンプライアンス委員会へ上申するなど、適切なリスク管理体制を構築しています。

気候関連課題への対応と開示

当社グループは、気候変動を重要な経営課題の一つとして位置付けています。気候変動リスク・機会の評価を実施するとともに、TCFD提言に基づく情報開示を推進しています。また、再生可能エネルギー導入などを通じてGHG排出量の削減に取り組んでいます。

リスク管理

2024年9月に持続的成長を遂げるための重要課題（マテリアリティ）を特定しました。気候関連課題も含めたマテリアリティについては、グループサステナビリティ委員会にてそのリスクの進捗管理や見直しを都度行い、適切なリスク管理体制を構築していきます。

戦略：シナリオ分析

シナリオ分析の範囲として、当社グループの主要事業地域である日本国内を中心に、研究開発・調達・生産・サービス供給までのバリューチェーン全体としています。分析にあたっては、21世紀末の地球の平均気温上昇を産業革命前と比較して1.5℃以内に抑える「1.5℃シナリオ」*と、4℃前後上昇する「4℃シナリオ」の2つのシナリオを設定し、2030年以降の長期的な時間軸を想定して考察しました。

* 一部2℃シナリオも併用

詳細 ▶ WEB 気候関連課題への対応

E S G 持続可能な地球環境への貢献

気候変動へのアクション -脱炭素に向けた取り組みの推進

指標と目標

当社グループは、2050年度のカーボンニュートラル達成に向け、2030年度を目標年とするGHG排出削減目標を設定しています。2026年4月には、この削減目標が、パリ協定が求める1.5℃水準と整合した科学的根拠に基づく目標であるとして、SBTiの認定を取得しました。さらに、再生可能エネルギーの導入を進めるとともに、廃棄物発生量の削減やリサイクル率の向上など、事業活動に伴う環境負荷の低減に向けた目標を設定しています。

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

項目	目標*3	単位	2023年度（基準）	2025年度実績	2025年度進捗状況
GHG総排出量 Scope1、Scope2（マーケット基準）、Scope3*1*2	2050年度カーボンニュートラル	tCO_2e	1,086,207	903,214	—
GHG排出量 Scope1、Scope2（マーケット基準）*1	2030年度50%削減（2023年比）	tCO_2e	45,125	18,849	58.2%減
GHG排出量 Scope3*1	2030年度25%削減（2023年比）	tCO_2e	1,041,082	884,365	15.1%減
総エネルギー使用量*1	30%削減（2023年比）	GJ	574,242	431,678	24.8%減
再生可能エネルギーの導入率*1	2030年100%	%	9.2	22.6	22.6%

*1 集計範囲：博報堂DYホールディングスとその連結子会社
*2 2025年度の環境データの一部について、第三者保証を取得しています。
*3 SBTi（Science Based Targets initiative）への認定申請のため、GHG排出削減目標の基準年を2023年度に変更しました。

廃棄物

項目	目標	単位	2019年度（基準）	2025年度実績	2025年度進捗状況
廃棄物発生量*1	平均50%以上削減を維持（2019年比）	トン	486	247	49.2%減
リサイクル率*1	85%以上	%	82.2	72.7	72.7%

*1 集計範囲：博報堂本社（赤坂Bizタワー）

詳細 ▶ WEB 気候関連課題への対応

第三者保証

当社グループのGHG排出量（Scope1、2、3）について、KPMGあずさサステナビリティ（株）より独立した第三者保証を受けています。なお、Scope 1、2排出量については、博報堂DYホールディングスおよび国内連結子会社を対象とした値について第三者保証を受けています。

詳細 ▶ WEB GHG排出量 保証報告書（2025年度）

再生可能エネルギー

当社グループは、2030年度までに再生可能エネルギー導入率100%を目指し、事業活動で使用する電力の脱炭素化を進めています。グループ各社の入居施設や電力契約の状況に応じ、再生可能エネルギー由来電力への切り替えや非化石証書の活用などを推進しています。

当社グループ複数社が入居している赤坂Bizタワーでは、2023年度より年間電力使用量の100%を「グリーン電力*」に切り替えています。

* グリーン電力：FIT（固定価格買取制度）による電力の買い取り期間を終えた住宅用太陽光発電由来の環境価値がついた実質的な再生可能エネルギー。三井不動産（株）と東京電力エナジーパートナー（株）が、オフィスビル等における「使用電力のグリーン化に関する包括協定」を締結し、テナント企業へ安定的に提供する。

ISO14001に基づく環境マネジメント

当社グループでは、環境方針のもと、一部の組織において国際規格ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを運用しています。環境関連法令や社内ルールの遵守、環境目標の進捗管理、内部監査などを通じて継続的な改善を図るとともに、従業員への環境教育や啓発活動を通じて、日常業務における環境負荷低減を推進しています。

詳細 ▶ WEB 環境マネジメント

TOPICS

社員一人ひとりで実践できる環境アクションの呼びかけ

環境アクションガイドブック（博報堂グループ）



オフィス運営を担う総務室では、正しい分別の促進や省エネを進めています。また、ISO14001に基づく環境マネジメントの一環として、社内啓発ツールとして「環境アクションガイドブック」を作成し、社員一人ひとりに日常の中で実践してほしい「4R」（Reduce、Reuse、Recycle、Rethink）の呼びかけにも取り組んでいます。

E S G 持続可能な地球環境への貢献

サステナブルな行動変容への貢献
-サステナビリティの社会実装に向けたビジネスやコレクティブインパクトの推進

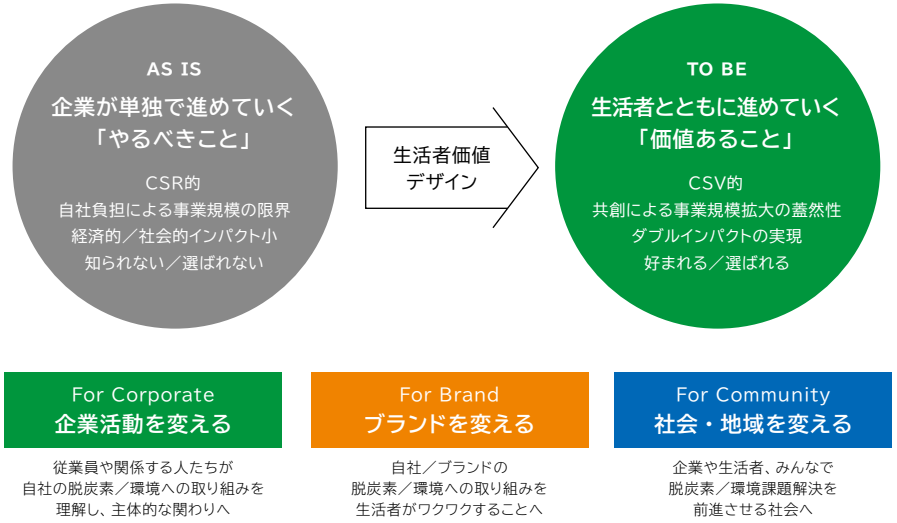
当社グループは、脱炭素をはじめとする社会課題の解決に資するビジネスの実装と、多様なパートナーとの共創によるコレクティブインパクトの創出を推進しています。

脱炭素ビジネスソリューションの提供

サステナクリエイティビティ for Carbon Neutral

博報堂グループは2025年より脱炭素化や環境課題をテーマとした統合ソリューション「サステナクリエイティビティ for Carbon Neutral」の提供を開始しました。企業が抱える脱炭素および環境に関する課題やアプローチは企業活動やブランド、社会・地域など多岐にわたるため、個別の課題だけでなく全体を俯瞰して取り組む統合的な観点が求められています。

「サステナクリエイティビティ for Carbon Neutral」では、各分野の専門性を持つグループ会社および専門組織等が連携し、調査・分析・戦略策定から企画、実装、検証、改善に至るまで一気通貫で支援。クライアントが抱える課題に応じて、組織や領域を横断したソリューションを提供しています。



TOPICS

クリエイティブにおける時間・場所・コスト・環境負荷という課題を克服

バーチャルプロダクション（博報堂プロダクツ）



バーチャルプロダクション（VP）は、映像制作を「時間と場所」の制約から解放します。専門エキスパートが企画から完成まで一貫して支援し、LEDビジョンなどの先進技術を活用することで、これまで複数日にわたっていた多彩な撮影を、効率的かつ高品質に実現します。表現の可能性を広げながら、撮影にかかるコストを最適化。さらに、ロケ地への移動やセットの設営・撤去、資材の廃棄などを削減することで、環境負荷の低減にも貢献します。専門性と表現力、テクノロジーを結集し、高品質と効率性、持続可能性を両立した新しい映像制作を実現します。

環境アクションにおける敷居を取り払い、誰もが参加しやすい仕組みを実現

デカボスコア（Earth hacks）

CO_2削減率を可視化する「デカボスコア（Earth hacks）」を通じて、商品やサービスを選ぶことが、そのまま脱炭素へのアクションにつながる仕組みを提供しています。アニメ、スポーツイベントとの連携をはじめ、脱炭素普及のアイドルユニット「DECA!BEAT（デカビート）」や学生との共創プログラム「デカボチャレンジ」など、様々な接点から一人ひとりの行動変容を促進。大手コンビニエンスストアやライフスタイルショップ、自治体など、350社以上1,800商品以上*への導入へと広がっています。

* 2026年4月時点





Earth hacks×ハロー!プロジェクト企画ユニット「DECA!BEAT（デカビート）」